

進路指導部会

岩井 紀子

東京都、株式会社ベネッセと手を結ぶ

東京都教育委員会は2019年2月

「民間資格検定試験を活用した東京都中学校スピーキングテスト（仮称）事業実施方針」を発表した。中学校で学習した英語「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4技能のうち、「話すこと」に関する技能の習得状況を検証することなどを目的としているが、最も注目すべきことは、民間業者に委託し、その結果を都立高等学校入学者選抜英語検査の評価に導入することである。

昨年10月31日、東京都教育委員会は株式会社ベネッセコーポレーションと基本協定（2023年3月末まで）を締結。来年度（現中学2年生）から完全実施となるが、スピーキングテストの導入・活用の流れは〈表1〉の通りである。

〈表1〉

| 年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----|-----------------------------|-------------------------------|--|
| 種類 | プレテスト | 確認 プレテスト | スピーキング テスト |
| 対象 | 一部抽 出校 第3学年 約8000人 | 都内公立中学校 第3学年全生徒 約80000人 | 都内公立中学校 第3学年全生徒 及び都立高等学 校受験予定者 約10000人 |

※2018年度にも一部抽
出校、3年生約10000人
を対象に調査を行つて
いる。
※2022年度都立高等学
校入学者選抜（2021年
度実施）においてテスト
結果を活用（予定）。
実施日は毎年度、11月
の第4土曜日から12月
の第2日曜
日までの週休日または祝
日。

わが中学校でも今年9月の週休日、ほぼ関係ない中3の子対象に確認プレテスト実施の予定。教員は関与しない。公立中学校616校、約80000人の生徒がテスト専用のタブレット端末・イヤホンマイク・防音用イヤーマフを使用。業者で機材・試験監督・誘導員・採点者等、すべて準備・確保する。約一億五千万円（都の負担予定）。これから毎年、ベネッセに流れていくことになる。

実質15分程度（説明を含めて約50分）、都立高校入試英語検査の17%程度を占め

るといふこのスピーキングテスト。以下そのテスト内容（2018年調査問題より）。

No.1 What is your favorite animals?

No.2 What time do you usually go to Bed?

この後、Yes Noで答える問題、原稿を読ませる問題、絵を見て説明する問題、45秒で自分の行つてみたい国についてスピーチをする問題へ続く。

80000人の子に対して、採点者は何人？どういふ人が採点しているの？公平な採点はできるの？これって「話すこと」の問題？そもそも「話すこと」の問題とか、「書くこと」の問題などと分類することは不可能。：疑問はつきない。膨大なお金をつぎ込み、もつともらしい理屈をつけながら不明瞭なまま進めようとする東京都教育委員会。あの大学入試に業者検定を導入しようとした問題の東京版ではないか。

また入試が絡めば、幼少期からの英語教育に拍車をかけ、塾産業（ベネッセ含）の台頭となる。子どもの経済的背景も大きく影響し、「できる子」「できない子」のさらなる格差を生み出す。社会的に議論したい内容だ。（小金井・緑中）